

1 学校教育目標 = 学府教育目標

郷土を愛し、志をもち、自己実現をめざす生徒

～ よりよい社会と幸福な人生を自ら切り拓く“未来の創り手”の育成に向けて ～

自分がやりたいことが社会貢献となる姿が「自己実現」である。生徒は、(いじめ等ない)安全欲求・(学級等での所属感がある)社会的欲求が満たされ、尊厳欲求・自己実現欲求へと向かう。

学校は、家庭、地域、そして、福祉・医療機関とも連携することで、生徒の自己実現を支える。また、本来的に担う教育活動(学習指導・生徒指導・部活動等)を通して「生きる力」を養い、自己実現に向かって絶えず成長するための基盤を育む。

安心・安全のため、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と共に生きるという認識に立ち「新たな生活様式」の徹底とGIGAネットワークスクール構想にあるICT機器の有効活用を進める。

2 学校経営方針 (学校教育目標実現のために、重点化すること)

(1) 深い生徒理解から、とことん寄り添う組織的生徒指導の推進

(特別な配慮を要する生徒への対応、ケース会議の実施…虐待・貧困等、いじめ・不登校等)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実践。学習評価と指導の一体化

(新たな学習評価への対応と授業改善、ICTの効果的活用)

(3) 「ONE TEAM」…職員集団、学年・学級、部活動等への所属感の醸成

(管理職の目配り・気配り・支援。学年主任を中心とした学年集団作り、学級担任による行事や日常生活による生徒の学級所属意識の高揚、部活動顧問による部員の一体感の醸成)

(4) 「新たな生活様式」に対応した教育課程の編成、小中一貫教育の再構築。

(感染症対策を踏まえた特別活動と総合的な学習の時間の創造、対話を基盤とした一貫教育)

3 めざす子どもの姿(生徒像)【重点目標】(小学部でも中学部でも願う姿)

自己実現を目指す際、生徒個々の生きる力の基盤となる「知」・「徳」・「体」調和のとれた成長を、そして「生命尊重」「郷土愛」を重点目標に定め、指標を設定しPDCAサイクルをまわす。

【知育】 目標をもち、自己・他者・対象と対話し、学びを深める子供

☆他の生徒や先生とかかわり合いをもち、学びを深めていると考える生徒の割合
(R1=97.6% R2=67.2%) → 95%

【徳育】 自他を尊重する心をもち、正しく判断し、よりよい自分を発揮する子供

☆ルールを守り、協力する雰囲気がある学校(学級)であると考える生徒の割合
(H29=80.9% H30=80.6% R1=85.7% R2=82.1%) → 95%

【体育】 しなやかな心をもち、心身を鍛え合い、困難に挑戦する子供

☆保健体育科の授業や部活、社会体育やクラブチーム等に参加したり、個人でトレーニングをしたりして自分の心身を鍛えていると答える生徒の割合
(H29=79.4% H30=85.0% R1=83.8% R2=63.3%) → 90%

【生命】 かけがえのない命を大切にし、精一杯生きる子供

☆「新しい生活様式」を実践できていると答える生徒の割合
→ 100%

【地域】 郷土に学び、自ら考え、地域社会によりよく関わる子供

☆今後、機会があれば、地域貢献活動に参加したいと答える生徒の割合
(H29=68.2% H30=69.3% R1=69.7% R2=80.4%) → 75%

4 学校運営方針（経営方針(1)～(4)に沿った具体的取り組み）

- (1)-1 副主任者（生徒指導対策）会で、具体的支援の明確化・共有化を図る。必要に応じケース会議で十分に協議し支援する。学級担任・（副）主任に加え、養護教諭・生徒指導主事・特別支援教育コーディネータ（サポート教室担当者）が家庭、医療・福祉と連携し支援する。
- (1)-2 小学部と情報共有し、発達段階に応じた特別支援教育、個に応じた支援を推進する。必要であれば、早い段階で医療や福祉機関との連携を図る。教員が小・中兼務する中で、生徒理解に関しての情報共有と、支援・指導の一貫性を高める。
- (1)-3 学校生活に適応困難な生徒の居場所（保健室登校・サポート教室）を確保するとともに、その生徒が通常学級に戻れるよう、学級担任等のアプローチを増やす。生徒に寄り添う学年体制を主任・副主任を中心に構築する。
- (2)-1 「主体的、対話的な深い学び」に迫る、単元・題材のデザイン力を高める校内研修、考え議論する道徳を実践する。
- (2)-2 各教科における指導と評価の一体化を進め、新学習指導要領に対応する評価・評定と授業力を向上させる。
- (2)-3 よつば学府教育の機軸「対話活動」コミュ・トレでつけた力を、「学びを深める対話」につなげる。また、社会に開かれた教育課程を実践する。
- (2)-4 大型モニター・生徒一人一台のタブレット活用による効果的指導を推進する。
- (3)-1 教職員が互いの心身の状況に気を配り、協働により無理させない体制づくりを行う。運営委員会・学年会、職員室等で意見を言い合える環境づくりを行う。
- (3)-2 生徒が、二大行事（体育大会・よつば祭）への取組や日頃の特別活動・生徒指導を通して、所属感をもてる学級づくりを推進する。
- (3)-3 部活動においては、技術向上を中心に据えるのではなく、折れない心の育成や集団への貢献・所属感をもたせることに重点をおいた指導を推進する。
- (4)-1 新たな生活様式を周知・徹底し、校内でも感染症拡大を起こさない。それとともに、新しい生活様式を踏まえた教育課程編成、とりわけ、学校行事・生徒会活動において、付きたい力を明確にした取組を創造する。
- (4)-2 よつば学府教育の3つの機軸「信頼を築く対話」「学びを深める対話」「地域とつながる対話」を推進。レジリエンスやコミュ・トレ等の共通実践の充実を図り、小中一貫校としての取組を行う。
- (4)-3 小中共通した校務分掌の利点を生かし、各部で児童・生徒のよりよい成長のための取組を検討・推進する。
- (4)-4 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、できる可能性を探りつつ、地域とともにある学校として地域貢献活動への参加意識をより高める。いわた大祭りや裸祭り等地域行事との連携を持続可能なものとする。

5 学校評価における数値目標 (含：磐田市の目標指標)

■【生徒】■

- (1) 学校が楽しい。(市) (90%)
- (2) 授業の内容がよく分かる。(市・県) (85%)
- (3) 今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある。(市) (60%)
- (4) 進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している。(市) (70%)
- (5) 学校に相談できる(信頼できる)先生や友人がいる。(市・県) (90%)
- (6) あいさつや返事がきちんとできる。 (90%)
- (7) 授業で自分の意見や考えを、筋道を立てて発表している。 (70%)
- (8) 城山中学校の生徒会活動(専門委員会、その他学級の係活動)に協力して取り組んでいる。 (90%)
- (9) 城山中の生徒であることに誇りを感じている。 (80%)

■【保護者】■

- (1) 城山中及びよつば学府が目指そうとしている子供の姿や教育内容について知っている。 (80%)
- (2) 城山中の先生は、子供のことを理解して指導にあたっている。 (85%)
- (3) 子供と日常的に会話をしている。 (95%)

■【教師】■

- (1) 学府教育目標・目指す子供像を意識して指導をしている。 (85%)
- (2) 学校経営方針を意識し、小中の接続、小小の連携を意識して教育活動を進めている。 (90%)

6 勤務環境改善

- (1) ミライムによる出退勤状況及び部活動申請により、勤務実態の把握を管理職が行い、時間外勤務80時間(過労死ライン)を超えないよう繰り返し指導する。勤務時間を意識したスケジュール管理ができるよう教職員の意識改革を進める。
- (2) 教職員自らが「働き方改革」のためにできることを考え、学年会や分掌部会で話し合う機会を設定し、職員会議や運営委員会で提案する場をつくり、一つでも実現できるように努める。
- (3) ガイドラインに沿った部活動の適切な運営に努め教員の負担軽減を進める。
- (4) 個々の分掌業務において、教育計画を働き方改革の視点で再構築を求める。
- (5) コミュニティ・スクールやよつばプロジェクトなどによる保護者・地域・外部機関、団体等との連携による外部人材の活用、スクールサポートスタッフのより効果的活用を進める。